



石油コンビナート等における自衛防災組織の技能コンテストへの取り組みについて

扇島地区共同防災協議会 事務局
JFEスチール株式会社 東日本製鉄所 (京浜地区)環境・防災部
永谷 滋章

扇島地区共同防災協議会(会長事業所: JFEスチール(株)東日本製鉄所(京浜地区))は、令和元年度「石油コンビナート等における自衛防災組織の技能コンテスト」において川崎市を代表して出場し、最優秀賞(総務大臣賞)を受賞いたしました。

これは川崎市消防局や川崎市臨港消防署のご指導と会員事業所のご協力があったこそこの賜物と深く感謝申し上げます。当協議会の紹介とあわせ、コンテスト出場への取り組みについて報告させていただきます。

1. 扇島地区共同防災協議会の紹介

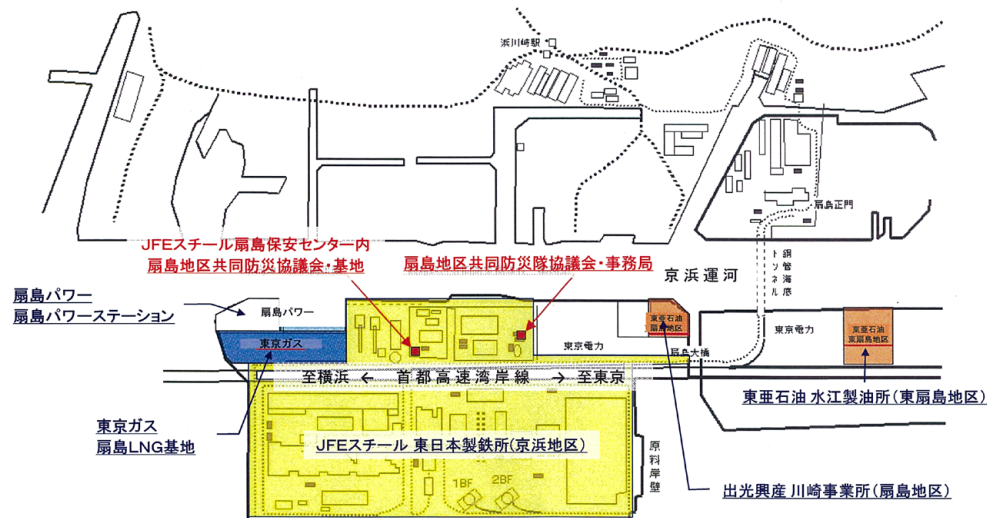
当協議会は1977年7月に京浜臨海部の扇島地区にある特定事業所4社からなる共同防災組織として設置され、現在は扇島地区と東扇島地区の5事業所(製鉄1、製油2、ガス供給1、発電1)により運営されています。

扇島地区共同防災協議会の概要

| | |
|----------------------|--|
| 所在 | 神奈川県川崎市川崎区扇島1番地1 扇島保安センター内 |
| 設置 | 1977(昭和52)年7月 |
| 会長事業所 | JFEスチール株式会社 東日本製鉄所(京浜地区) 会長: 常務執行役員 東日本製鉄所京浜地区所長 石毛俊朗 |
| 会員事業所 (2020.2.1.) | 東亜石油株式会社 水江製油所(東扇島地区) |
| | 出光興産株式会社 川崎事業所(扇島地区) |
| | 東京ガス株式会社 扇島LNG基地 株式会社扇島パワー 扇島パワーステーション |
| 業務委託先 | JFE東日本ジーエス株式会社 セキュリティ事業部 京浜事業所 |

扇島地区共同防災隊はJFEスチール(株)扇島保安センター内に基地を構え、委託を受けたJFE東日本ジーエス(株)セキュリティ事業部の隊員が、大型化学高所放水車と泡原液搬送車を運用し、扇島地区と東扇島地区の会員事業所における自衛防災業務の一部を担っています。

扇島地区共同防災協議会・特定事業所配置図
川崎市川崎区扇島1番地1



京浜臨海地区特別防災区域(扇島・東扇島地区)



扇島地区共同防災隊の拠点



総務大臣賞表彰式(前列中央:消防庁長官)

2. 扇島地区共同防災協議会のコンテスト参加歴

川崎市からは3共同防災組織と1自衛防災組織が順次コンテストに出場しています。

扇島地区共同防災協議会は「実践に役立つスピードを重視した実技」を心がけ、初出場した平成28年度に奨励賞(消防庁長官賞)を受賞しています。

2度目の出場となる令和元年度は、川崎市代表として初となる最優秀賞(総務大臣賞)を受賞できました。

扇島地区共同防災協議会の出場結果

| | 出場防災組織名称 | 結果 |
|------------|-------------|-------------|
| 第3回 平成28年度 | 扇島地区共同防災協議会 | 奨励賞(消防庁長官賞) |
| 第6回 令和元年度 | 扇島地区共同防災協議会 | 最優秀賞(総務大臣賞) |

3. 当協議会における技能コンテストの概要

1)活動想定

自家発電用燃料(C重油)を貯蔵する屋外タンク(高さ約20メートル)の気液部腐食からの漏洩火災を想定し、泡放射による消火活動を演技しました。



競技場所：扇島液体燃料ヤード重油タンク



大型化学高所放水車による訓練演技

2)予選の実施

令和元年度は自衛防災組織の出場総数が38組織となり、当協議会もビデオ審査による予選にて本選に出場する20組織に選抜されました。

3)本選の実施

10月11日に弊社扇島地区の屋外タンク貯蔵所にて、消防庁特殊災害室の審査員により本選競技のビデオ撮影がおこなわれました。

4) 審査

審査は、消防車両操作とホース等各種資機材の取り扱いの確実性と迅速性および活動中の安全管理等について評価基準により実施されたとのことでした。

4. コンテストへの当協議会の取り組み

1) 放水体形と出場チーム編成

放水体形は、大型化学高所放水車と泡原液搬送車によるパターンです。

中隊長(1名)、小隊長(2名)、機関員(2名)、隊員(2名)の7名および控え要員1名を加えた総勢8名でチームを編成し、コンテストに挑みました。

扇島地区共同防災隊コンテスト出場者の年齢構成

| | 中隊長 | 小隊長 | 機関員 | 隊員 | 平均年齢 | 備考 |
|--------|-----|-------|-------|-------|------|-------|
| 平成28年度 | 46 | 41、45 | 32、36 | 35、35 | 38.5 | 初出場 |
| 令和元年度 | 43 | 37、27 | 26、24 | 22、20 | 28.4 | 経験者1名 |

予選通過はもちろん、「前回の奨励賞以上の成績を」との周囲からの期待を受けて、全員が「今回こそは総務大臣賞を」と意気込んで令和最初のコンテストに臨み、川崎市消防局・臨港消防署のご指導のもとに技能向上に励みました。

2) 訓練方針と実施状況

上位入賞は減点なしのうえでタイムでの競り合いになることを想定し、前回出場時の「実践に役立つスピードを重視した実技」の訓練方針を踏襲しました。

訓練は週2回、熱中症予防等を考慮して午前中2時間半以内とし6月から取り組みました。

実施要領の読み込みを徹底し、総務大臣賞受賞チームの模範映像と自隊の訓練映像を繰返し比較研究し本操作と一連の活動を確認して、確実かつ迅速な技能の体得を目指しました。

川崎市臨港消防署の訓練立会と映像チェックによるご指導をいただき、規律・安全管理・技能を短期間で向上することができました。

また今回は控え要員をおき、欠員の代替や補助をすることで訓練効率を上げることができました。一人で全ポジションを代替することは大変な苦勞ですが、多様な技量を習得でき本人にとっても有意義だったとのことでした。



安全かつ確実性を求められる消防車両操作



活動終了後の点呼・安全確認

3) 関係部門の協力

訓練場所は自社施設とはいえ、操業部門がタンク受払い等している施設であり、施設周辺の通路は大型車両が往来する構内物流の幹線となっています。

協議会事務局を介して関係部門にコンテスト参加の意義を理解いただき、施設使用の調整と維持管理の徹底および訓練時の安全確保等への協力と支援も受賞の鍵となりました。

5. コンテスト出場の効果

コンテスト出場は中隊長となる警備長のリーダーシップの涵養に非常に有益であると考えています。前回出場の中隊長はその後、保安センター係長に就任しています。今回出場の中隊長は、20代の隊員とのエイジギャップや個性の尊重と隊の統率の両立に悩んでいましたが、消防職員からの指導を受ける過程でその悩みが解消され、自信を取り戻せたと語ってくれました。

また、経験の少ない若手隊員の育成にもとても有効でした。

更に、入賞を目標に組織全体で活動に取り組むことにより、組織活性化や各隊員の自信とやる気醸成への効果も高く、保安センター全体の士気の向上に大きく寄与しました。

6. おわりに

当協議会は、京浜臨海部コンビナートの安全の一翼を担う防災組織として会員事業所のみならず地域からも期待されております。

2度目のコンテスト出場で最優秀賞（総務大臣賞）をいただけたことは大変な名誉であり、川崎市消防局ならびに臨港消防署の日頃からのご支援に感謝いたします。

「日本一の共同防災隊」の称号を手にしたことを誇りに、これからも会員事業所と共に教育訓練に取り組み、地域の防災力の強化に貢献してまいります。



本選終了後の記念撮影



表彰式後の記念撮影